

J 災害等の対応について

自分の生命・身体は、自分自身で守ることと、みんなで助け合って活動することが災害対応の基本となるものです。

そのためには、皆さん一人ひとりが防災の知識を学び、事前の備えを十分に行い、災害発生の際には、正しい情報を迅速に把握して、消火や救助、避難などの災害対応活動を実践できるようにしておく必要があります。

なお、地震、台風等の自然災害や火災、パンデミック(世界的な感染症の流行)などの災害等が発生した場合の大学の対応方針等については、本学ホームページやKULASIS等で周知しますので、こまめに確認をしてください。

① 地震発生時の対応

京都市又は宇治市域で震度5強以上の地震が発生すれば、すぐに大学構内に危機対策本部を設置して、全学体制で、消火や救助、学生・教職員等の安全確保、教育・研究・医療活動の継続や再開に向けた取組等を実施します。

皆さんは、地震を感じたり、緊急地震速報を受信したときは、すぐに授業や実験を中断して、「安全確保行動1-2-3(まず低く、頭を守り、動かない)」を実践して自身の身の安全を確保し、火の始末と負傷者の確認等を行った後、教職員の指示や、周囲の方と協力して消火、救出、救護、避難活動を実施してください。

そして、落ち着いてから自主的に「安否確認システム」を使用して自身の安否状況の登録を行ってください。

地震の基本的な知識、発生したときの行うべき行動、火災発生時の対応、授業の休止、再開、自宅での備え、家族等との安否確認の方法等については、「地震対応マニュアル 学生用」に記載していますので、参考にしてください。

また、自宅や下宿で想定される地震の最大震度や被害想定等は、市町村が発行する地震ハザードマップで確認しておいてください。

地震対応マニュアル(京都大学 HP)

<https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/Earthquake-Safety-Manual-ja-aa56d4b5c5ffee2f0fbd40ccab1f892d.pdf> (日本語版)



② 火災発生時の対応

火災をいち早く発見し、迅速で的確な通報、初期消火、避難活動を実施することが被害を小さくする

ポイントになります。

そのためには、日頃から、自動火災報知設備や消火器、屋内消火栓などの消防用設備の設置場所や使用方法、避難経路などを確認するとともに、積極的に消防・防災訓練等に参加してください。

なお、炎が天井近くまで達したときや多量の煙が発生したときは、消火を断念してすぐに避難してください。また、火災や地震発生時の避難に際しては、エレベーターは、使用しないでください。

③ 大雨や台風への対応

大雨や台風などの気象災害は、河川の氾濫や堤防の決壊、土石流や土砂崩れ、内水氾濫による建物や地下施設の浸水などにより、生命・身体・財産に大きな被害を招くことがあります。

気象庁は、気象災害の影響の範囲や被害の規模などについて予測し、台風情報や気象警報として発表します。また、これに対応して市町村長からは避難勧告や避難指示（緊急）等の発令、公共交通機関からは運行停止の予告等が発表されることがあります。

皆さんは、情報メディアを通じて情報収集に心掛け、時間をおって段階的に発表される気象情報や避難情報、関連情報を活用して、自身の安全確保行動をとってください。

特に、台風通過や集中豪雨、暴風時は、外出を控えることと、地震と同様、普段から食料・飲料水等の備蓄や非常用持ち出し品の準備を行っておくことが重要です。(地震対応マニュアル 学生用参照)

また、自宅や下宿で想定される洪水、土砂災害の危険度や被害想定等は、市町村が発行する水害ハザードマップで確認しておいてください。

水害、土砂災害の危険性が高まったときは、市町村から警戒レベル情報が発令されるのですぐに、避難行動をとってください。

< 避難情報等 >

警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警戒レベルに相当する気象庁等の情報
警戒レベル 5	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる	災害発生情報 (可能な範囲で発令)	大雨特別警報 氾濫発生情報
警戒レベル 4 全員避難	速やかに避難	避難指示（緊急） ・緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令 避難勧告	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報
警戒レベル 3 高齢者等は避難	高齢者は速やかに避難 土砂災害警戒区域等や急激な水位上昇のおそれがある河川沿いにお住まいの方は、避難準備が整い次第避難開始	避難準備・ 高齢者等避難開始	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報
警戒レベル 2	ハザードマップ等で避難行動を確認 ・危険な地域や避難場所等を再確認		大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意情報
警戒レベル 1	災害への心構えを高める		

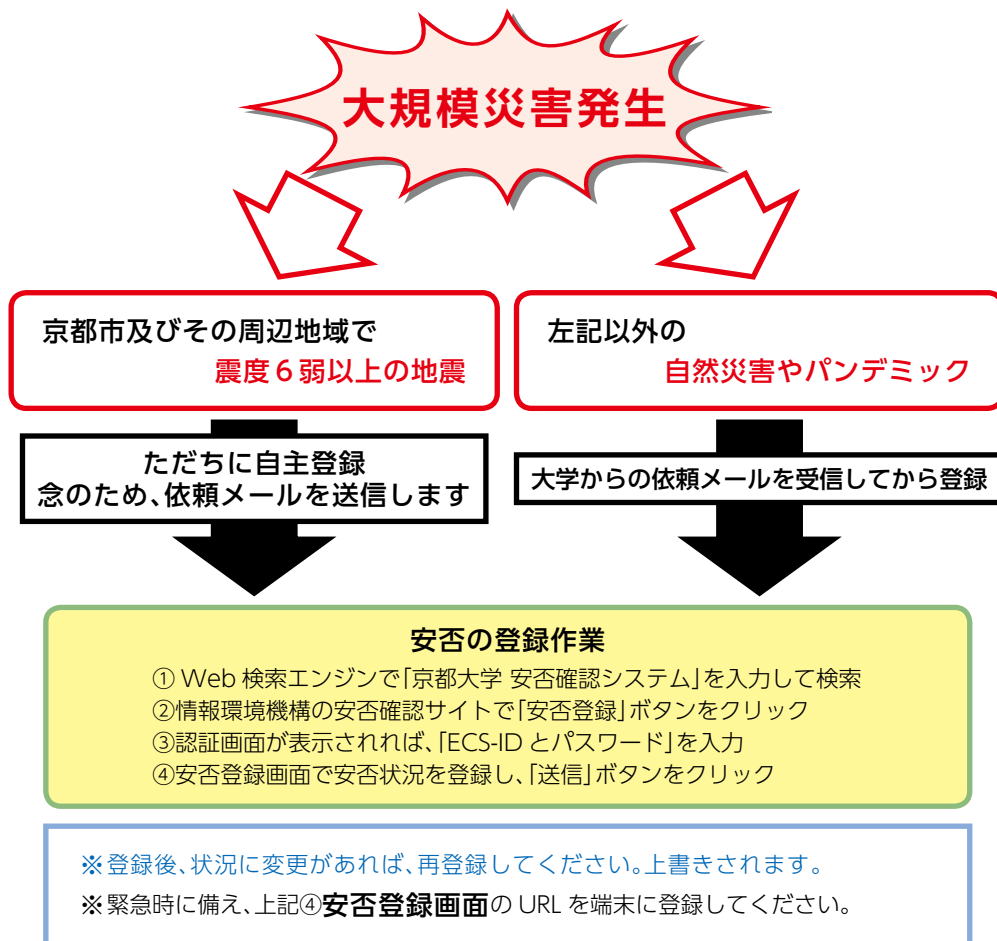
④ 安否確認システム(災害時には自主的な安否登録を)

地震や台風などの大規模な自然災害、パンデミック発生などの緊急時に、皆さんの安否を把握することは、授業や試験の再開、被災した皆さんの生活・修学支援、災害対応方針の検討等、極めて重要なことです。

皆さんは、災害等が発生すれば、自分のスマートフォンやパソコン、タブレット端末から「安否確認システム」にアクセスして、自主的に自身の安否状況を登録してください。(安否登録依頼メールには、フィッシング、標的型攻撃の危険性を回避するため、URL を記載していません。)

なお、システムへの登録がない場合、所属部局が、直接、電話やメール、友人等への問合せなどの方法により、安否を確認することになります。

【安否登録の流れ】



※京都市及びその周辺地域は、次の地域です。

- 京都府南部 — 京都市、南丹市、亀岡市、向日市、長岡京市、宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、京丹波町、大山崎町、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村
- 滋賀県南部 — 大津市、草津市、守山市、栗東市、野洲市、近江八幡市、東近江市、甲賀市、湖南市、日野町、竜王町
- 大阪府北部 — 大阪市、豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町、守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市

⑤ 災害等に伴う授業・試験の取扱い

学生の安全を確保するため、地震(震度6弱以上)の発生または、特別警報、暴風警報の発表、もしくは公共交通機関運行休止の事態が生じた場合の授業及び定期試験の実施については、「災害等に伴う休講等の措置等に関する取扱い」で確認してください。

災害等に伴う休講等の措置等に関する取扱い(京都大学 HP)

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/cli/canceled>



⑥ 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症に対する大学の方針(感染症対策、授業、課外活動等)については、本学ホームページやKULASIS等で適宜最新の情報を発信していますので、国・自治体の情報と合わせてこまめに確認をしてください。

皆さん一人一人が、マスクをはずした状態での第三者との近距離での会話や食事(会食)を避けるといった日常生活における基本的な感染防止策を徹底するとともに、国が提言している『感染リスクが高まる「5つの場面」』(①飲酒を伴う懇親会等、②大人数や長時間に及ぶ飲食、③マスクなしでの会話、④狭い空間での共同生活、⑤居場所の切り替わり)にも十分注意してください。

体調が少しでも悪いという場合は、かかりつけ医もしくは居住する地域の保健所に相談するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染が確認された場合や濃厚接触者となった場合、同居者が濃厚接触者となった場合は、速やかに所属する学部・研究科等に連絡してください。

新型コロナウイルス感染症への対応(京都大学 HP)

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/foundation/coronavirus>

